

二〇二四年三月三日

日本台湾交流協会台北事務所主催

「台湾短歌大賞」

応募作品一覧

		応募作品																				お名前 (ペンネーム可)	お住まい																																							
30	じいちゃんの台湾土産大皿の白々しい城敬いけり	29	シャンプーを天まで高く夢広げ私の髪も天下一かも	28	隣人が元気な声で「呷飽没」異客いつしか台湾に根を張る	27	葉の緑茎の白さの際立ちし翠玉白菜きりぎりす這う	26	台湾をメイクアドラマテイクアチャンス君の瞳も美しすぎる	25	鳳梨酥求め一步を踏み出しぬ八角の香のあふるる街へ	24	庭の木の下枝に小鳥帰りがくり冬の夕べの深き静もり	23	おさな児の手のひらに乗るちっちゃこいパイナップルに南国の香	22	夢見るは台湾屋台食べ歩き混ぜそば食べて行った気になる	21	不確かな宵闇照らす天燈に色とりどりの願い託して	20	ぼんぼりの光り輝く賑わいのわけなく嬉し士林の夜市	19	サトウキビジュースの味が恋しいね海の向こうの初一人旅	18	忘れない、挨拶の声、リジャバアメ、情け深くて、僕の故郷	17	藤花を三つ色咲けて九重に思ふ乱れる君の心は	16	よく客を「帥哥」と呼ぶ朝食屋「あの客さん」と呼ばれるブルー	15	音もなく吸い込まれゆく天燈の赤をみつめる十分の空	14	青い空自由の下に未永く未来に進む意義を活かせよ	13	台湾の未来の自由を守らんと鄭南榕の部屋は焼けたり	12	ほととぎす忍びぬ暑さ蝉もなく帰り道には汗だけと共	11	甘すぎる台南グルメ甘すぎるああ甘すぎる血糖たかい	10	藍と白合わず緑に「三党が一両損」の台湾民意	9	烏山頭嘉南の友と手を合わす5月8日の技師墓前祭	8	おもいやり足りないのでは我が国の交通マーナまだ未熟かな	7	吹き続く東北からの寒風は港町にて思い出になる	6	台所、碗が並んで、はは作る、すいギョーザ汁、きに入りの味	5	彰化県いつも素敵だ田尾郷フロラと遊び道でチャリンコ	4	遠くから豆腐の臭い一口と食感爆破消えぬ後味	3	少年ら片瀬の浜で円になり故郷偲んで「椰子の実」歌う	2	民主と自由の価値を知りながら大切にした綺麗な小島	1	日本人朝の通勤乗チンだ隙間だらけの MRT			
	藤 雅紀	モーみい	ぼんず	木村 隆夫	ギザギザ仮面	ひろみ	河上輝久	まつたく	吉富 孝則	石井 彩音	今林 義和	桜吹雪恋慕	李 叡	羽柴相模守	ライ	水野芳	こうさく	田中徹尾	劉裕賢	極糖ちゃん	林詒孝	may lee	翟炫穎	戸田 夏賜	姫木 侑江	李 同	月見	石川公弘	宏	ばいちゃん																																
	日本	日本	台北	埼玉県	日本	日本	日本	日本	日本	日本	日本	日本	台中	高雄	彰化	日本	新北	日本	新北	台南	北部	日本	北部	北部	中西部	中西部	北部	日本	東部	北部																																

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	
翠玉の白菜に見るキリギリス精緻のほどに目を見張りけり	天燈の山裾越しに昇りゆく紫雲たなびく茜のそらに	信号は青くなったらスクーター動物みたいマイグレーション	大王がやっつてる店が多いねと厨房見つつ豆漿啜る	かき氷出会った場所は九份で様仔の味很好吃	台湾の世界に誇る博物館歴史の重みひしひしと見す	台北に掛かる虹橋平和橋台中からも台南からも	良かっただのに まず夜市食べたいものをハシゴする大食いファイターなら	台湾の梅咲いたとき感じるここと花でつながる人との思い	横暴はとめどもなきか台湾を呑み込まむとし口開けてゐる	引き継いだ台湾旅の父の夢千尋に出逢う九份の地	ルーローファン異国の地より戻り来て故郷の味と舌鼓打つ	日本名聞きそびれたる龍山寺元日本人となりし彼人	芋の奥愛が溢れて差し伸べる正月の傷なだめる心	朝霧のたなびく山の木々愛でて微かに聞こゆがたんどんと	八月を全部さらっていくみたいマンゴー味の台湾啤酒	花に風空と海さえ聴き惚れたテレサのことを天使と呼ぼう	台湾と日本を歩きはしご酒平和を結ぶ桜前線	少女らはスコールの中走り乗る髪の毛の香りの列車に満ちて	富士よりも高嶺のありと見上げたる一足早きむめが島かも	寒い日に欲しくなるのは熱いお茶台湾お茶は如何でしょうか	欠番	台湾にその根を張りし幾歳も会わぬ従妹の笑顔を想ふ	台湾を愛し学びし語る君病床の中生きる糧	私の目に見えない領域は愛のルームメイトを練習します前世の関	係魂は短くて長い心と心の音行方不明のキス恋に落ち続ける	モノクロの火焰木の木の下の父三歳忠男台湾とあり	両親は台湾生まれ台湾育ち大陸的でおおらかだった	わが国よ自由であれと願いつつ戦う覚悟台湾の民	うるわしの島と繋がる心から震災の度感謝を伝え	台湾を愛し学びし語る君病床のなか生きる糧
薫風	杉浦均	森末	なにもの	橋本憲人	中原政人	フリーディエン	ありえす	写楽	女郎花	山口秀樹	のりのり	黒瀬まり子	洪劭琦	たからつつむ	深谷健	翡翠詩憶	岩中幹夫	中野秀秋	岡崎佐紅	恵子		堀卓	沼尾千代	三燿／サニエ	ひかる	ぱせり	東家芳寛	しん	沼尾千代	お名前 (ペンネーム可)
日本	日本	台北	日本	日本	日本	日本	日本	日本	日本	日本	台北	日本	彰化	台北	日本	日本	日本	日本	日本	台北		日本	日本	高雄	日本	日本	日本	日本	日本	お住まい

90	99	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61		
台湾の漢字だらけの街を見てまるで辞書の遊園地のよう	溶けかけた氷の上に芋圓いつか食べたい本物の味	タン レポートのテーマはすぐに見つかった母を読んでたオーダー・	観光も食もいと美 ^よ き憧れの台湾訪う其 ^そ はいつの日ぞ	日本と仲良き隣人台湾の誇りは高く脅し屈せず	大阪のヒョウ柄おぼと思いきやすごくかわいい台湾おぼだ	お節介とは思わずに人情と義理だと思う台湾人だ	ご機嫌よと声かけられ驚いて振り返ったら台湾人だ	日台の絆かつての新高山今日玉山の海峡を守る	滔々と川は流れて幽邃な太魯閣溪谷に朝日輝く	百薬に勝る笑いの恵比須顔互いニコニコ楽しい生活 ^{くらし}	手際よくパイナップルをカットする義父そのおいしさは台湾で	ゆらゆらとゆれるみかんを子供等は歩みとどめてばかんと見おり	九份の街での食事懐かしく石の通路をすり抜け上がる	かきあげのうるさくこえも久しぶり親しみ思ふ塩釜の浦	テレサ・テン日本女性性の心情を哀しく歌い美しく逝く	日台の友好深め里帰りさくら植樹に風香りけり	旅で知る君の意外な横顔を夕日が包む九份の丘	クラクシオン晴れやかに鳴る大通りバイクの波にうごめく台北	九份の空を見てると三日月と目が合ってまたニコリと笑う	深夜〇時シメのお粥を食べる僕横から聞こえる我愛你	赤子抱きバイクに乗るも通り雨我らにかっぱ差し出す天使	台湾で夜市散策食べ歩き絶品グルメ満喫の旅	台湾も日本も干支は辰年で飛躍の年になると期待し	空と水繋がっている台湾と外に出て知るふるさとと偉人	熱帯樹赤黄紫花燦々蒼天朝乃愛河	煙咲く幻想風景地熱谷花より団子温泉の味	鳳梨食べ微笑む君に脈打つも我はしががない野に咲くヒヨス	郷愁は朱のまちなかの明かりへと吸い込まれ階に迷い込んでく	台湾と日本に架かる橋がある友情という心の橋が		
ツチャヤタカユキ	藤 夏記	見習っています	海神 ^{わたつみ} 瑠珂 ^{るか}	吉富 孝則	彩衣	彩衣	大宮 ^{あや} 彩衣	岩田 勇	高田津 優	陳清波	藤井京子	謝靜意	大島すみ子	羽柴上野介	貝田ひでを	伊藤 英俊	ひろ	伴あずさ	池田 玲亜	げんきいっぱい	竹田理恵	陳俐穎	白水 秀美	おしぼり	岡田 正信	温泉 大好き 皆同じ	井谷堂茂	しむら えり	江戸川散歩		
日本	日本	日本	日本	日本	台北	台北	台北	日本	日本	台北	日本	台北	日本	高雄	日本	日本	日本	日本	日本	日本	嘉義	高雄	日本	日本	日本	日本	日本	日本	日本		
																														お名前 (ペンネーム可)	お住まい

118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	
「会いに行く」ハガキが届き君を待つつま先を立ち幸せ伸びた	臭豆腐熱気とネオン赤黄色五感全てが飲み込まれゆく	潮騒に高鳴る旅愁熱き湯に煙る朝日の台湾離島、	「会いたい」とオンボロチャリが鳴り響き君を指して迪化街行く	ラインから「交通事故だ！」無事になりありがたいなあ「参拝しよう」	晩ごはん外で食べるとラインくる火鍋に負けた母の手料理	潮騒の湯に入る旅愁高鳴りて朝日に煙る台湾離島	峨々として立霧溪に聳え立つ太魯閣の溪は神秘的なまでに	雨が降る夜市は店の名を光らせあなたと冷たいものが食べたい	溶けぬゆき凜とたつはな刺すやうに冬がふきつく語らぬ吹雪	朋友の紡ぐ言の葉短歌詠むその姿はや臺灣歌壇	いただきますはまたね君と白菜海が揺らめくあいだきらめき	天燈節スマホを切って見た空の一つ一つに言霊宿る	ダレがいい？自分で決める気持ちちが沸くこういう民主台湾らしい	道端で山桜一本自然の風静かに歩くお茶を飲むこと	さしのぼる朝日さそわれ老い樂園月金の集いわが玉蘭荘	合唱に吸い寄せられて龍山寺曇天の先煙はのぼる	ゆっくりと身体を預け沈み込むゼリーのような夜市の風に	霧一時的な豊かさ暖かい荒野を一つ一つ活力	茶盤から溢れるくらい四季春が（ほんとはあなたの温もりが）欲しい	白色は染まらぬあかし木綿は新たな春を両手で迎える	雪国の団欒の中に旺來酥味わい思う南方の風	九份の提灯館屋根に猫月が落ちたらニヤオと鳴いてた	台湾の方の募金の知らせ見ていつか御礼の旅で行きたい	九份のレトロ情緒の街並に「千と千尋」の世界を見たり	墓護る烏山頭の人々の変わらぬ誠に心打たれる	いにしへよりアサギマダラのふるさととは冬は台湾春は日本	つも出てくるよ空白の明日	青空に憧れないで緑地を期待しないでください島に足を踏み入れるい
洪逸辰	予報外れの雨	駒場一博	やーくん	夏帆 ナツホ	牧野明日香	駒場一博	破れ蓮	大山田いぬふぐり	シモル	大野利可	沖田よる	桜小町	ゆいき	阿ㄟ牯	黄阿叻	佐藤南	石原一郎	阿ㄟ牯	中山裕貴	秋吉和紀	大淵航	月夜案山子	フクラギ	松田素風	松田和生	畠山みな子	方維賢	お名前 (ペンネーム可)
日本	日本	日本	日本	新北	日本	日本	日本	日本	台北	日本	日本	日本	台中	新竹	台北	日本	日本	新竹	日本	日本	日本	日本	日本	日本	日本	日本	新北	お住まい

応募作品

147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	
屋台にて筆談をして通じ合うタピオカミルクのようなやさしさ	めくるめくネオンの街を駆け抜ける春の日差しに見逃されたい	欠番	台南の空気は甘い箸持って空中に振って綿飴ゲット	アイドルを気に入ったせいでそれからはお金をなくすでも楽しいよ	この場所はスープが甘い茶も甘い何でも甘いそれは台南	寒い日は団子食べたい小豆スープでタコ芋も入れてああ幸せだ	久しぶり日本に行ったら気がついたカムサハムニダここは韓国？	台湾の天気がおかしいずっと暑い突然寒い風邪ひいちやう	さくらばし日本人いるおもしろい日本語会話上手になった	肩組みて語らう歴史物語綴る友へと翔る架け橋	あしひきの旭日に啼く山娘白髪のパウの住まふ蓬莱	台湾と日本を結ぶ立役者源太郎氏は我が町の人	手に持ったタピオカミルク帰省中に必ず頼む五十嵐のメニュー	冬を越えいつしか春日風 <small>ハルヒ</small> に載り記憶をたどり雲へ突き抜け	晴れの日か風邪で寝込みし幼少の日のみまみえし台湾バナナ	軟綿の果噛み付く美味し燦爛に太陽金光閃閃我等黄金	お供えの台湾バナナが欲しくって赤マジックで「さくじ」と書いた	台湾から台湾と日本日本から日本と台湾見てわかる今	台湾の茶畑にある発酵香甘く広がる鐵觀音	阿里山驚、雲海の果てに、手を伸ばし、昨日の約束、花の朝露	千里まで香り立つ梅折れぬ枝新芽を思い仰ぐ春天	美しい唐芋の形温かい人の心は台湾である	我もまた汝と同じく地震 <small>ない</small> の国手を差し伸べる心優しき	国父たる孫文翁を記念する公園に満つ革命の遺志	肅然と始まる衛兵交代に中正紀念堂は異世界	待望の日本へ戻るとエイリアン台湾にいてもエイリアン	足元のタイルの冷たさ滲み入って追い焚き風呂に心を馳せる	能登地震ああ台湾の同胞の想ひぞあまたの寄付金となる	
松本 直樹	瀬崎薄明		杜宜庭	黄楚璇	邱郁涵	林宇婷	黄楚貽	陳嘉麗	施	尊の君	李 哲宇	松岡 哲彦	ハナ	星内綾理	高田 明洋	日辰	斎藤 作次郎	金子晴一	とも	坂東八橋	植田 仁那	黄雅芳	大下純子	安田蝸牛	白藤 巳玲	えりな	えりな	大西和子	お名前 (ペンネーム可)
日本	日本		台南	台南	台南	台南	台南	台南	台南	日本	日本	日本	台北	屏東	日本	屏東	日本	日本	新北	新北	日本	新北	台北	日本	日本	台北	台北	日本	お住まい

174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	
幼な子に足並み合はせゆく山路河津櫻はひそと咲きをり	春の陽を葉陰に吸いて香桂の色冴え冴えと鳥来の夕	夜市に立つワクワク気持ち「タピオカは」「ルーロウハンか」どちらから食べ	海の上浮かぶアヒルにこんなにも癒されたのが高雄の私	あたたかい台湾だから人もまた豆花みたいなやさしさがある	台湾を祖国と語る人のあり時を忘れて語り合いたり	豆花をシェアして笑顔少女たち国境超えた友情の花	タイヤル 泰雅の教え子告げる児の成長幸込め返すLINEピポリと	鬼は外福は内では物足りず爆竹鳴らし鬼耳塞ぐ	我が町やミサゴのように海に飛び込み再び雄飛できるかな。	ふくらかに豆花をすくう銀の匙炎天の午後ゆびに冷たし	夕立のひねくれ外す梅雨枯れぬ重々し待つ罅ぞ乾くて	年二回幸せいっぱいお正月日本台湾国際結婚	おきなこの類は台湾カステラで触れば淡い春があつまる	台湾は海を越えても近い国思い合えば距離は縮まる	学びの書いまは巷にあふれしが重き荷背負うた若き日なつかし	湯気の舞う夜市の中を流れゆくこの人々に幸多かれと	ふしぎだな日本の方が寒いけど雨シトシトねそこシベリアだ	父逝きて我に残しし台湾の縁を育てて2年余	缶詰の魯肉飯をしみじみと愉しみにけり友おもひつつ	しゅぼしゅぼと畑を走る五分車は糖都虎尾のど甘い記憶	九份を歩けばわかる神隠しきつとどこかで千尋に会える	空港に香る八角懐かしと騒ぐ心は郷愁を知る	島人も醜の皇楯と出で立てど生きて帰れぬ英霊安かれ	欠番	台北のマラソン終えて温泉へ観光まとも歩きだす我	枯れる地に嘉南の水が齎した土地への恵み八田へ感謝	
小林 春輝	Nijinsky	カク	ホウヨウ	真朱	松本 俊彦	ゆん	李自成	和賀 涼子	南島乃風	原田 伸	呂奕赫	伊藤 文子	春ひより	しげ3	三線小町	原田 治	和賀 靖明	原 正人	坂口隆裕	李玉璽	東山 春風	OS	頼 衍宏		田中 和美	胡晉豪	お名前 (ペンネーム)
台北	フランス	台北	高雄	日本	日本	日本	日本	台北	高雄	日本	嘉義	台南	日本	日本	新北	日本	台北	日本	日本	雲林	日本	日本	台中		日本	台南	お住まい

応募作品

204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175		
十年前一緒に行ったね台湾に今度は孫も一緒にいかが	俳句の本に日本語人の父偲ぶ言葉のパワーと命の無限さ	石油から象のノズルのシーレーン牡丹の蜜吸うタピオカミルク	はふはふときみがほおぼる小籠包五つ目かしら春はもうすぐ	捨てないで折れちゃった薔薇生け直す一期二会の輝く生命	千キロの環島終えて思うこと今ふたたびの歩み始めむ	楽園の台湾有事外交で戦争避けて世界は笑顔	台湾の友と都会で待ち合わせ小籠包のような夏雲	は、やはり臭豆腐だ。 口寂しい時、何を食べたいの？考えもない。台湾の食べ物	冬天在哪裡季節とは、夏阿鼻地獄、冬氷河、春一瞬で、秋実在の？	天球を飄と掠むる本塁打のごと伸びゆけ台湾球児	バス揺られ八角形の駅弁の手の平よりも大きな排骨	さつきから笑ってばかりの私たちうちわのように鶏排握る	熱狂の夜市で忘る失恋か涙が止まる臭豆腐なり	ひとり旅夜市の牡蠣入りオムレツは母にも食べて欲しくなる味	訪日のタイワンランの楽しげな会話見ても我も笑み出す	沖繩と台湾繋ぐ悠遊卡御守りがわり財布に忍ばせ	平戸なる波寄せる浜児誕岩母の思いの今につたわる	来日後続々増えたタピオカ屋満足いかない本場の味覚	ぼんやりと帰りのバスを待つあいだ知らないうちに初雪にけり	カラフルな蝶のお守りだれかとの縁を結んで今ここに居る	台湾の太陽ジリリあつまりてボンノクボより夏を知らせる	よるのまちかがやく夜市いきたくてはやくはやくとかぞくをせかす	烏山頭ダム周辺農地あり八田の功績台日結ぶ	台湾語知っているのは2つだけ魯肉飯と真好食よ	祖の眠る島の未来を照らさんと移り住まひて一票を投ず	日台の歴史を知らぬ若者に語り伝える友好の絆	次々と灯り咲きいる九份の階段は紺の空へ続きぬ	独立派リーダー選ぶ国民にエール送りしSNSで	子の刻の街にこだます「パンパオロ」光と共に願ひし平安	応募作品	
豊田まりえ	林珮琛	北谷 匠	せいま	洪華婷	ぼーれんさん	春寿	大野美波	雨小娃	由宇	遠藤 玲奈	つべる	海瀬安紀子	ルビー	前園 優子	原田 治	ソンナニ・キレン デ	原田 治	じょんじょん	蕭宜珊	香山 もも	中村雨石	貓咪女孩	ちっち	放浪小娘	辛 正仁	田中恭司	多治川 紀子	やまやま	山縣 遥香	お名前 (ペンネーム可)	
日本	台北	日本	日本	台北	台北	日本	日本	桃園	新北	日本	日本	日本	日本	日本	日本	日本	日本	彰化	日本	日本	新北	日本	日本	日本	日本	台北	日本	日本	日本	高雄	お住まい

232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	
台湾の愛に謝謝能登支援心に灯る希望の光	母娘たび道を訪ねし龍山寺身振り手ぶりで優しまなざし	回るべきところは回り尽くしたよ小籠包の店もう一度	ゆきのこる玉山がえりふもとにて気付く優しさ笑顔が戻る	人と会うたびにご飯は食べたかの会話で始まる優しさがある	春節の廟の軒先けむりたつ天にもほれ吉事としかかな	はるばると海越へ嫁いで来たのよと台湾の宿の女将笑へり	お互いの影は踏めぬと気づきたり日本と台湾海風とほりゆく	海霧は晴れて船首に立つ祖父が指さす稜線あれが台湾と	留学の兄を訪ねし台湾に釈迦の頭の甘きを知りぬ	山の国三千メートル上回る雄々しい山が山々あるよ	やわらかな霧に抱かるる梅の花海を渡りて櫻と香る	おおい 大地震に如何なりけむ 台湾人 我も学ぶ引き合ふ心	臭豆腐蒸すか煮込むか揚げるのか臭いと言うが食べるとハマる	面白い北から南一日に体験できる春夏秋冬	夜の市に人込みのなかで思い出す友と一緒心懐かしむ	「さんご」なる時どき届く会報誌いつもどきどきどの短歌なるかと	思いやる気持ちあふるる地震支援感謝たえない島国の友	街道で小さな緑ここに住む歩く姿は遠くまで行く	語り合い清水参道降りてゆくほおを撫でつる身寒の東南風	目が覚めて遠く眺める亀山島雲開き散り白鷺が飛ぶ	祖母の手を引いて寧夏の夏を往く夜市の風に薫るタロイモ	春の空水田藪で小雨の日子連れ玉鶺鴒食べもの探し	大正の生まれと笑う林さんの日常を詠む美しき言の葉	夕暮れて下り坂道前のめりランプの明かり天使顔	十二年そんなに経つと忘れたかなわけないよ梅の匂いは	五色鳥枝に籠りて鳴く声を仰げば深き溪谷の中	東風に乗り爆竹の煙目にしみる街にあふれる赤の眩しさ	
がんばれ能登！	春木美子	中島走吟	南雲 由美子	中野 満友	水野 巖	なぎさ	野崎 精子	野崎 眞奈美	みどり	時祺 張 To Ki Chang	境谷 春菜	石村 憲雅	嘉子	かな	しょうたく	小伴旅人	ペリドット	ゴエイギ	東耕太郎	獻山	渡邊 美愛	林 獻山	近江 堇花	山本 幸男	鹿樹	三宅 節子	清水裕美子	お名前 (ペンネーム可)
新北	日本	日本	日本	日本	桃園	日本	日本	日本	日本	高雄	日本	日本	新北	新北	高雄	日本	日本	新北	台中	宜蘭	日本	宜蘭	日本	日本	日本	台北	新北	お住まい

259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	
ゆふしほや梅が香つめし箱舟の渡りきてほし地平線へと	午後心時は戦う時間しつかりと眠たい瞳絶対負けない	高雄の日蓮池潭で遊び嘉義の夜夜市で食べる帰りたくない	熱々の臭い豆腐よあげあげにがつつり食べたためちやくちやうまい	橙に優しく灯るその色は故郷を語る君の愛情	寒い日に外出せずに暖かいお布団の中引きこもりたい	天に飛ぶ竜は見守る素晴らしき甲辰の年台湾島を	宝島を呼ぶ台湾ふおるもさ美しき島本気に思う	灯された願いを飛ばし、ピンシーの彩る空へ届けるように	台湾で学ぶ我が娘のインスタに豊かなる食、豊かなる友	妻の地元風情感じる大橋は日台の絆結ぶ架け橋だ	指先にみかんの香りまだ残る冬はおしまいつぼみ見つけた	煌びやか光る夜市を心人きり天国に近い君は笑った	裏か表か確かめなくていい笑顔宝覚寺の布袋に会いたい	春節に一息つくも「初九」の拜拜再び市場へ急ぐ	夜来香一人そぞろに誘われて夜の屋台は妖しく優しく	忠烈祠衛兵交代凛々しくて暑さも忘れ左見右見して	花燈を下げ手つなぎで娘とゆきし元宵の宮いま杖とゆく	緑濃き美麗想いて植え置きしガジュマル三年繁り伸びゆく	あかくるまわたしのかのじよとても好きいつもいっしょに墾丁へ行く	夜中から、バイクに乗って、夜明けまで、大里から三重、六時間半	たいわんは葉っぱみたいな元氣じまいつでもみどり活気が溢れる	愛河の暗き水面のキャンバスを彩り滲む都市の灯りは	生きている僕を迷子にさせぬよう侯孝賢の映画を流す	色褪せり真紅の扉一世紀府城の劉氏憶えてますか	二九暝としの思ひはそれぞれにまどろしすぐす圍爐の桌	水馬の如くありたし斑猫の如くありたし台湾にゐて	
宮里万里	杜宜庭	青子	音野雪桜	夏巳	細胞	芳虎	勇雅なジッジ	長井哲也	笹鹿 岳志	みどり	りん	ねここども	奈良岡歩	同居大嫂	かえる」	高橋 基	林やよい	原田治	郭文	秋本正平	洪怡婷	山本 栞	山田 裕樹	早月丑三つ	市川春樹	服部 崇	お名前 (ペンネーム)
フランス	台南	台北	新北	日本	新北	新北	新北	台中	日本	日本	新北	日本	日本	新北	日本	日本	台中	日本	台南	台中	台南	日本	日本	台中	桃園	台北	お住まい

281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	
ふるさとの味を求めて日本食逃れられない八角の香 <small>こう</small>	青い海と山の緑台湾の春花火夜空故郷の味	桜惜しむ台湾心のうるわしやとわに匂わん花の心は	憧れのアジアの歌姫テレサテン台湾の地に今も生きてる	数千のランタンに灯が点されて空いつばいに願ひが浮かぶ	しきしまの道は海越へ麗しき国に続かむいついまでも	忘れじのすくう手に咲く蓮華草夏の桜と息吹かむ命	九份に夜の帳が下りてきて夕焼け色の街のときめき	淡水に柔らかく降る春雨を集めてきみと作る阿給	鉄の鳥春を待ちたる松山の絆を繋ぎ空を飛び交う	平和への願い託して昇りゆく天燈未来へ眩しきひかり	君おらぬ過年に慣れぬ時流れ頭数だけ元に戻るや	「体育の日」に見し子は老いても眼裏にひかる雙十節の横浜	三色で編まれたバッグ手に入れてついに始まる台湾旅行	苗栗恋し繞に甘きマンゴーよ食むは叶わず引揚げしより	至宝なる翠白の菜を携えて瑾妃嫁ぎし王朝の末	月台のあいだをふたり彗星のごとく揺られて向かう九份	夜空へときらめきながら舞い上がる祈りの想い天燈よ飛べ	親日と言われる国のナンバーワン昔も今も永遠の友	定年の父と旅した台湾の夜市が人を優しくさせる	北時雨霞む街灯がらんだうな迷い人と九份のまち	台湾と日本をもっと仲良しに	
笹鹿眞央	謝明哲	山田 凌大	田中 正博	野原亜莉子	神谷龍	里見 明叡	めめ	遠藤ゆう	北川 志保	久保田 聡	林理果	柴田 和彦	貴田 雄介	中川美和	降羽 優	遠藤翠	百合	にしくん	田中 亜紀子	きゆう	本間孝男	お名前 (ペンネーム可)
台中	新北	日本	日本	日本	日本	台北	日本	日本	日本	日本	新北	日本	日本	日本	日本	日本	台北	日本	日本	台北	日本	お住まい